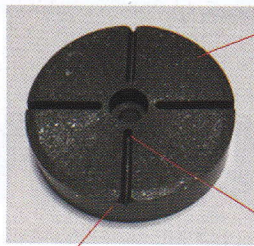


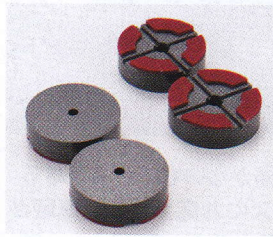
## KaNaDe03の3つの改良点(特許出願中)



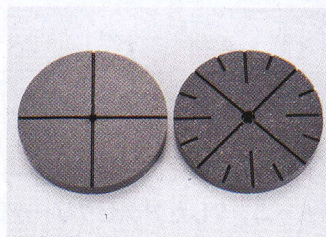
1.フェルトを無くし、外周から3mm内側の「4セクターライン=4分割扇形ライン」で床を支える。→跳ね返り音の抑制&明確な奥行を再現。

2.貫通しない溝。→過剰な響きを抑制。(長く聴いても疲れしない)

3.溝出口チャンファー加工。→楽器音の明確な分離。(ブレーキパッドの鳴き対策手法の1つ)



初代モデルの「KaNaDe01」  
¥12,000(4個・税込)  
●材質：特殊開発の樹脂+特殊フェルト●サイズ：50mmΦ×15Hmm●質量：約55g(1個)



スピーカー専用モデル「KaNaDe02」  
¥32,000(2個ペア・税込)  
●材質：特殊開発の樹脂●サイズ：100mmΦ×13Hmm●質量：約220g(1個)

くした方が聴きやすいわけです。それには、十字溝の幅がカギになるそうだ。溝の広い狭いで音の広がりをコントロールできる。「01」のこれら3タイプを融合させたというか、「01」のクオリティを高めつつ、どの音源でもカバーできるようにしたのが「03」というわけだ。「溝幅は01とワイドの中間にしたのです。ちょっとだけ01よりも広げることによって、あたかも外側から聴こえ

溝と面を改良しコントロール従来約3倍の手間がかかる

ほとんどチューニングの領域だが、改良点の図を見ながら解説し

るようになりましした。それだけ？といわれそうだが、もつと決定的な違いが3つある。

ていこう。

「フェルトをとったのは音にクリアさを出すためですが、床からの跳ね返り音をどう処理するかが課題でしたね」。

(1)がその対策だ。「外周から3mmのところを盛り上がり、傾斜勾配をつけました。すると、このラインだけが床と接触するため、床からの反射を解消できる。いまままでの前で聴こえていたオーケストラが、ちゃんとホールで聴くように遠くの方から聴こえるのです」。(2)の貫通しない溝というのは、これまでオープンだった溝に行き止りをつくと、それによって過剰な響きをなくし、聴き疲れを解消します。

(3)は出口付近の面取りだ。エッジが尖っているとそれが振動源になってまわり込み、ブレーキ鳴きのような現象が起きるといいます。このチャンファーによって、付帯音が激減する。BGMみたいに小さく鳴らしても、すべての音が聴こえるようになります。これを匠のワザではないか。

「03」の製作は大変で、「01」の3倍はかかるだろう。この手間で4個2万円という価格は安いのではないか。

## 「01」と「03」を比較聴聴 クリアさと広がり度で圧勝 音楽表現を自在に展開

マランツのSACDプレーヤーSA110で「01」と「03」の効果と比較聴したが、これは「03」の圧勝である。「03」は床反射によるもやつきやにじみなど皆無だし、クリアさが違う。広がり、ダイナミックさ、的確さ、何となく「01」で感じていたもどかしさがふつきれ、音源にベストマッチした自在の音場表現で、音楽に誘ってくれるのだ。

管弦楽や声楽は、はつとするとど透明で分離がきれい。S/N優秀、粒立ちが明快。際立つのは遠近描写と弱音のみずみずしさだ。余韻のそのまた余韻まで、生々しく届く印象である。スピーカーの外側までふわっとコーラスがまわり、みずみずしい広がりを見せた。ジャズもスピード感とエネルギー感、シユなところで「03」が差をつける。力強いグルーブ感がたつぷりだし、リズムがうもれずキチンと立ってピアノトリオのかつよさが伝わった。空気感もずつと濃厚でライブ感豊かなもの。

聴き疲れがないから、ずつといつまでも聴いていた。開発意図

どおりの完璧なサウンドに、さあ拍手を贈ろう。

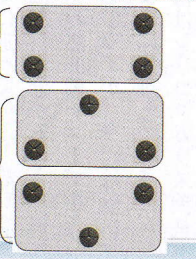
## アップグレードも実施 かさ上げ用の台座も発売

最後に嬉しいトピックスをお届けする。「01」のユーザーには朗報！「01」を預かって、4000円/4個で準「03」に追加加工というサービスが開始されたのだ。1月からメール受け付け中で、これを利用しない手はないだろう。もうひとつは、「03」をかさ上げするための、「KaNaDe01アソナダー」の発売。このオプションがあれば、コンポの脚を避けて、直受けができるから、さらに「03」のよさを発揮できるスクレモノだ。

KaNaDeシリーズの進化は止まらない。あなたもぜひオーナーになり、システムの限界までパフォーマンスを引き出して欲しいものである。

## KaNaDeの効果的な設置方法

- 4点支持 (×向きに)
- 3点支持 (中央は+に)



「KaNaDe03」の設置方法例